

多彩な魅力で心を満たす。

「日本さくら名所100選」に選ばれている「大河津分水桜並木」。世紀の大事業「大河津分水工事」の偉業を称えて植えられたこの桜は、今年も盛大に咲き誇り、多くの観桜客が訪れました。

その桜並木を舞台に開催される催しが「燕さくらマラソン大会」と「分水おいらん道中」です。

今年の燕さくらマラソン大会は、過去最多の1876人のランナーがエントリー。北海道から九州まで全国各地からランナーが集結し、春風が心地よく吹く桜並木の中を駆け抜けました。

そして、5年ぶりの屋外開催となった分水おいらん道中。大正13年頃、地元の有志が花見客向けに行った仮装行列が起源といわれています。当日は、歴史と自然の美しさが融合した光景が広がり、絢爛豪華な衣装を身にまとった「おいらん役」をはじめ、総勢63人の行列が1万6000人の観客を魅了しました。

桜並木は、季節の移り変わりを感じさせ、訪れる人に心地よい癒やしを与えます。燕市の春の風景は、多彩な魅力で多くの人の心を満たしてくれました。



①桜が満開となった大河津分水桜並木 ②大河津分水の桜 ③分水おいらん道中 ④信濃太夫 ⑤分水太夫 ⑥舞妓 ⑦手古舞 ⑧染井吉野太夫・燕市PR大使の大塩綾子さん ⑨分水駅の夜桜と快速「夜桜Shu*Kura」 ⑩燕さくらマラソンの参加者の皆さん

